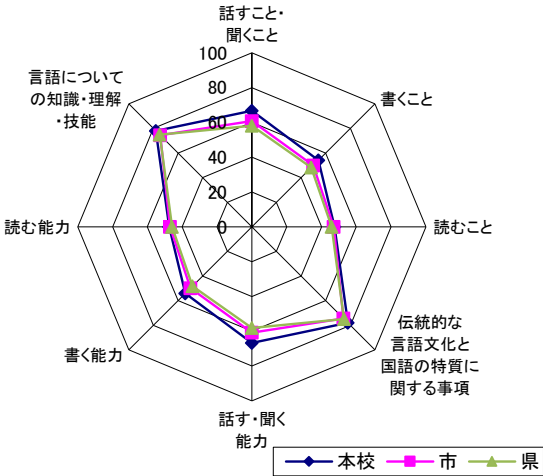


宇都宮市立桜小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	60.8	58.1
	書くこと	54.1	49.8	48.3
	読むこと	47.5	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.0	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	66.7	60.8	58.1
	書く能力	54.1	49.8	48.3
	読む能力	47.5	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	78.0	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話す力、聞く力は市や県の平均を大きく上回っている。 ○話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す問題では無答率0%ですべての児童が回答し、83.6%の児童が正答している。 ●話し合いの中で意見の共通点を考える問題では、市や県の平均は大きく上回っているものの、正答率は55.7%にとどまっており、意見の共通点を整理しながら聞く力はまだ十分に身に付いているとは言えない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「話し方のポイント」や「聞くポイント」を意識した指導を継続する。
書くこと	○記述問題では、内容を整理して書く力が県・市の平均よりも高い。 ●県・市の平均を上回っているが、無回答は0ではない。	・文章を書く機会を増やして、書くことへの抵抗を減らしていく。
読むこと	○文学的文章も説明的文章も、読んでおおよその内容を理解することはできている。 ●文章を読んで理解したことを、自分の言葉でまとめる問題では無回答率が高い。	・朝の読書やチャレンジ読書を奨励し、読む力の向上を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言語事項については、県や市の平均とほぼ同じであり、身に付いている児童が多い。 ●漢字の書き、部首、ローマ字について習熟度にばらつきがある。	・漢字の反復練習を継続し、習熟を図る。 ・前学年までの漢字、部首、ローマ字の復習を朝の学習の時間などを利用して行う。